

学  
習

No. 212

## 早発閉経の治療

40歳未満で卵巣の機能が衰え排卵しなくなる早発閉経の患者は国内で推定10万人とされています。今まではそれに対してはホルモン療法や他人から卵子をもらって体外受精などをしてもとに戻すというのが主な対処方法でした。ところがこのたび開発された治療法は卵巣を腹腔鏡手術で摘出し、いったん組織を凍結保存し、眠った状態の卵子のもとである原始卵胞を目覚めさせる物質を加えて培養、卵管を覆う膜の下に移植します。その後、卵子が成熟したところで採取して体外受精し、子宮に戻すという方法が実施されました。

これは若くして月経がなくなった女性の不妊治療ですが、自分の卵子を用いるというのが画期的なことで、この方法で、世界初の出産にこのほど成功したと聖マリアンヌ医大が発表しました。

具体的には、これまでに30人ほどの患者から卵巣を摘出し、約半数に原始卵胞が残っていると確認でき、その内5人から卵子が採集でき、受精卵にして子宮に戻した3人中2人が妊娠し、4年間月経がなかった30歳の女性が無事、男児を出産したということです。確率的には10%未満ということになりますが、医学はこうして少しずつ不妊治療に効果をあげているということでしょう。但し、この方法が有効なのは卵巣に原始卵胞が残っている人に限られるということです。しかし、今後は早発性閉経に限らず、加齢に伴って卵巣機能が衰えた人への応用も期待できます。一方、この治療方法の場合ハードルが高いのは卵胞の活性化技術と組織の凍結技術が高くないとできないということです。今後、臨床技術として100例をめざし、多くの症例を公開し、その安全性や成功率の向上を図っていかねばならない治療と言えるでしょう。

当院でも行っている体外受精や顕微授精などの不妊治療もそのスタート時点では極めて未熟な技術でした。当紙、206号(当年、5月21日発行)に記載しましたが、1968年、イギリスのロバート・エドワーズ氏が試験官の中で体外受精に成功したとき、宗教界から神の領域をけがすものと言ったごうごうたる非難をあびたものです。しかしやがてその技術は世界中に広まり、日本にも輸入され、そして当院、院長もそれを習得したわけです。今からわずか20数年前のことです。

医学をはじめとする科学技術の進歩は目覚ましいものがあります。上記の早発性閉経の

治療技術も今から10数年後にはかなり信頼性のおけるものになるのではないかと期待していいのではないのでしょうか。最早、神の領域に侵入などと言う人はいますまい。神の仕業によって早期閉経になったわけではないので、10万人の内のひたすら子供を授かりたい人への朗報となるようこの治療の発展を見守りたいものです。

### 当院のホームページについて

この紙面の右上に当院のホームページのアドレス(インターネット上のURL)が書かれていますが、最近ではパソコンでなくてもスマートフォンなどの携帯端末でネットに繋がりますので、ぜひ当院のホームページをご覧ください。

簡単に「[中山クリニック 小浜](#)」で出てきます(検索できます)。

当院のホームページは大きく9つの項目に分けてあります。

- 1『院長あいさつ』 2『総合案内』 3『診療案内』 4『入院案内』 5『各種クラス案内』 6『スマイルタイムズ』 7『アクアリウム』 8『ショーウィンドウ』 9『Q&A』

この内、6の『スマイルタイムズ』はこの院内報のことで平成8年4月10日に創刊号を出して以来、17年間、当紙212号に繋がっています。これら全部を読むことができます。

また、9の『Q&A』は主として患者さんからのネットを通じての病理に関する質問に院長と真里子Dr.が答えたものです。

すでに現時点で下記の数の質問が寄せられ、回答しています。

婦人科に関する質問	852	産科	”	630	
不妊	”	300	小児科	”	271
内科	”	9	その他	”	69

但し、質問は、小児科、内科は現在、担当ドクターが多忙のため、また、緊急を要するものの回答も受け付けていない点、ご了承下さい。

### <あとがき>

- 1) インフルエンザの予防接種を始めました。大人は1回、お子さんは2回。窓口でご相談ください。
- 2) 総合待合室のミニギャラリーは目下、宮川浩子さん(若狭町堤)の油絵です。「つばな会」で学びました。関心のある方は当会にお尋ね下さい。

### 原始卵胞を活性化する新しい不妊治療

